

くにたち 公民館 だより



発行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
☎ 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日

第29期 国立市公民館運営審議会答申

「現代の地域社会に求められる

公民館の事業について」を読んで

てうちあきとし
手打明敏(日本公民館学会会長・筑波大学)

8月29日(金)に、第29期公民館運営審議会の答申「現代の地域社会に求められる公民館の事業について」が、公民館長に提出されました。その全文は、公民館受付で冊子を配布しているほか、国立市のホームページでもご覧いただけます。この答申は、約30ページにわたり、近年の環境変化、国立市の課題、国立市公民館の課題などを網羅的に検討した内容になりました。今号では、この答申を、

今、公民館に求められるもの

近年、地域社会の活性化の観点から、社会関係資本の一つである公民館が注目されるようになった。たとえば、第2期教育振興計画(平成25年6月閣議決定)のなかでは、

公民館等の社会教育施設を拠点に、関係部局や関係機関が連携・協働しつつ地域課題解決に向けた支援活動を地域コミュニティの形成につなげていく取り組みが提起されている(基本施策20)。また、今年の10月9日・11日にかけて岡山市で開催された「ESD推進のための公民館—CLC国際会議」(29か国から約60名参加)では、

ともに目を向け、人々を結びつけ、生きがいを得られる公民館事業の必要を指摘している。これらの提案は、「誰もが排除されない持続可能な社会を築くため、教育の在りようを見直すときには、コミュニティに根ざした学びにこそ、要となる役割が与えられるべきである」と述べている「ESD推進のための公民館—CLC国際会議」で採択された「岡山コミットメント(約束)2014」に通じる視点である。

豊かな学習環境を目指して

本答申を読んで私が注目したことは、「5 公民館事業拡充の前提としての条件整備」である。公民館運営審議会が提示した公民館事業を具体化するためには、一つ目に、公民館を増設する必要があること、二つ目としては、公民館職員の増員と専門性を強化することである。答申でも指摘されている

ように、公民館が市民の多様なニーズに応えて豊かな学習環境を具体化していくためにも量と質の両面で公民館職員の充実を求めることは、理に適った指摘である。「岡山コミットメント」においても次のように述べられている。

「各コミュニティが、地域の発展の過程に当事者として参加する自信がもてるよう、引き続き職員の専門的能力や組織の力量の育成・向上に努めることによって、効率的で機能的な公民館・CLCづくりを着実に進める」。

答申が提案した国立市公民館の課題は、「公民館—CLC」が取り組む世界的共通性を持つ課題でもある。今後の国立市の取り組みに注目したい。



手打明敏さん(2012年、公民館のつどいにて)

第29期 公民館運営審議会

活動のまとめ

(任期2012年11月1日～2014年10月31日)

公民館運営審議会は、市民や学校の先生、社会教育の専門の方などで構成され、2年間の任期で月一回開かれています。公民館に市民の声を反映するための会で、どんなでも傍聴できます。

はじめに

第29期国立市公民館運営審議会(以下、公運審)は、2012年11月から活動を始めました。委員15名(社会活動団体・機関からの推薦者11名、学校教育関係者1名、家庭教育関係者1名、学識経験者2名)のうち、前期から引き続いたの委員は4名、1期目の委員は11名でした。1期目の委員が多いことが特徴です。

第1回定例会で、教育長から委嘱状が手渡され、まずは正・副委員長、各種委員を選任しました。続く数回の定例会では、公民館について、および、公運審について学び、また、2012年度の公民館事業の概要と予算の説明を館長から受けました。

館長からの諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業について」に応え、答申を提出

今期の公運審が取り組んだ最大の課題は、2013年3月の第5回定例会で公民館長から出された諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業について」を受けて、答申を作成することでした。答申の作成は、5月の第7回定例会から、各委員が、公民館事業の現状を踏まえて、思っていることを自由に出し合い、意見交換することから始めました。

何回か自由に話し合っているうちに、次第に「国立市公民館が取り組むべき課題」の数々が見えてきました。そこで、課題を大きく3つに整理・分類し、3つの小委員会をつくって、事業についての具体的提言を検討し文章化する、という方針を決めました。以降、小委員会での検討→定例会での発表・意見交換→小委員会での再検討→定例会での討議、という手順を何度か繰り返し、全体をまとめ

た文章についても何度か検討を重ねました。そして、2014年8月の定例会で答申文を最終決定し、8月29日に館長に提出することができました。

答申はA4版で約30ページ、公民館が取り組むべき事業等についての具体的な提言は45項目となりました。

要望書の提出

【職員人事についての要望書】

公民館事業を企画し、実施するのは職員です。公民館が良い事業を実施できるかどうかはひとえに公民館職員の力量にかかっているといっても過言ではありません。このことは歴代の公運審が指摘してきたことでもあります。今期の公運審もまた、公民館職員体制のあり方に深い関心を持ち、市長、教育委員長に要望書を3通、提出しました。

最初の1通は、社会教育主事である職4年の職員が2013年4月に配転となったことを受けての、「公民館職員の異動に関しては公

第29期公運審 活動記録

- | | |
|----------|--|
| 12・11・13 | 「第1回定例会」委嘱状伝達。委員長、副委員長選出。公民館だより編集研究委員、社会教育学習会委員を選出。 |
| 12・9 | 第50回東京都公民館研究大会(委員6名参加)。 |
| 12・11 | 「第2回定例会」委員研修「公民館の歴史」。 |
| 13・1・8 | 「第3回定例会」委員研修「公民館事業概要の説明」。 |
| 2・12 | 「第4回定例会」委員研修「公民館予算」。公民館の施設、設備見学。 |
| 2・17 | 東京都公民館連絡協議会(以下、都公連) 委員部会研修会(講師・荒井文昭氏) 委員3名参加。 |
| 3・12 | 「第5回定例会」館長より諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業について」。社会教育学習会「未来夜話(第1回)」が開かれ、定例会終了後研修として委員14名参加。 |
| 4・9 | 「第6回定例会」国立市公民館職員人事に関する要望書〈案〉について意見交換。社会教育委員の会委員、都公連委員部会委員を選出。 |
| 5・14 | 「第7回定例会」「12年度事業報告書」について館長より報告。諮問について意見交換。 |
| 5・27 | 「国立市公民館職員人事に関する要望書」を市長、教育委員長に提出。 |
| 6・11 | 「第8回定例会」「公民館事業の現状と課題」の説明等。 |
| 7・9 | 「第9回定例会」館長より諮問事項の背景説明等。 |
| 8・13 | 「第10回定例会」諮問事項の討議「国立市の課題」。 |
| 8・24 | 都公連委員部会研修会(講師・上田幸夫氏) 委員1名参加。 |
| 9・5 | 社会教育学習会「未来夜話(第2回)」 委員8名参加。 |
| 9・10 | 「第11回定例会」諮問事項の討議「国立市の課題と公民館事業」等。 |
| 10・8 | 「第12回定例会」諮問事項の討議「公民館事業の課題」等。 |
| 11・12 | 「第13回定例会」答申骨子(案)をめぐって討議。「公民館だより」の市報との統合案をめぐる動きについて意見交換。 |

民館職員の専門性を十分に踏まえて行ってほしい」との要望書です(2013年5月27日提出)。

2 通目は、長期間、公民館で働いた職員が2014年3月で定年退職となる、「その後任について十分な配慮を求める」との要望書です(2013年11月27日提出)。

3 通目は、今期の「答申」の提言を踏まえての、「職員体制の拡充を求める要望書」です(2014年10月9日提出)。

「公民館だより」の統合に関する要望書

2013年11月に、「公民館だより」、「市報くにたち」、「くにたち市議会だより」など市の広報紙を統合したかどうかという意見があり、担当者会議が開かれるということがありました。そこで、公運審としては、「統合の是非については、市民のためという視点で市民の意見を聞いて検討すべきである」という趣旨の要望書を市長に提出しました(2013年11月27日提出)。

反省点と課題

今期の公運審は、「答申」作りに追われ、多忙のうちに任期を終えてしまった感があります。でき

なかったことがいくつかあります。そのうち重要と思われることは以下の2つです。

1 つは、各年度の事業について、公民館からその計画、実績等についてしっかりとした説明を受け、公民館事業の望ましいあり方について館と共に考える、という作業が十分には行えなかったことです。あと1つは、前期までの公運審の答申等での提言について、その実施状況を追跡することが不十分にしかなかったことです。

おわりに

地域社会における公民館の役割が重要性を増してきているにもかかわらず、近隣他市の状況などを見ますと、公民館がその力を十分には発揮できなくなっているところが見受けられます。そうしたなかで、国立市公民館は、なお、きちんと新たな役割を果たし続けています。これは、これまでの積み重ねと市民の力によるものです。しかし、楽観はできません。これから、国立市公民館が市民にとって力となる公民館であり続けていくためには公運審の役割がきわめて重要であると、委員一同、認識を深めた2年間でした。



第29期国立市公民館運営協議会

山家悠紀夫(委員長)、山田哲也(副委員長)、石井直美、岩知道浩子、大井利雄、長田利信、佐藤節子、佐藤ミエ、鮫島恭江、志賀明、志村泰宏、杉野聖子、丹野春香、戸井田展、間瀬英一郎
・東京都公民館連絡協議会委員部会委員 山家悠紀夫(13・31)、佐藤ミエ
・「公民館だより」編集研究委員 石井直美、大井利雄、長田利信
・社会教育学習委員会 佐藤節子、杉野聖子、間瀬英一郎
・社会教育委員の会委員 佐藤節子

11・27	「公民館だよりの統合に関する要望書」を市長に、「公民館職員の人事に関する要望書」を市長、教育委員長に提出。
12・1	都公運委員部会研修会(講師・伊東静一氏) 委員2名参加。
12・10	「第14回定例会」答申骨子(案)をめぐって討議。答申作成に向け課題別小委員会を組成。
12・14	諮問事項につき課題別小委員会にて話し合い。
14・1	「第15回定例会」課題別小委員会から討議内容の報告、討議。
1・18	第51回東京都公民館研究大会、委員6名が参加。
2・11	「第16回定例会」課題別小委員会から討議内容の報告、討議。
2・23	都公運委員部会研修会(講師・荒井文昭氏) 委員2名参加。
2・25	社会教育学習会「未来夜話(第3回)」 委員6名参加。
3・11	「第17回定例会」課題別小委員会から討議内容の報告、討議。
4・8	「第18回定例会」課題別小委員会提出の文案を討議。
4・16	都公運総会。委員2名出席。
5・13	「第19回定例会」課題別小委員会提出の文案修正点を討議。
6・10	「14年度公民館予算」について館長から説明を受ける。
7・8	「第20回定例会」答申(案)を討議。
7・19	「第21回定例会」答申(案)を討議。
8・12	都公運委員部会研修会(講師・上田幸夫氏) 委員2名参加。
8・29	「第22回定例会」答申(案)を討議、了承。
9・9	「現代の地域社会に求められる公民館の事業について」答申を提出。
9・9	「第23回定例会」職員体制の拡充に関する要望書、「活動のまとめ」につき討議。
9・27	社会教育学習会「未来夜話(第4回)」 委員4名参加。
10・9	「職員体制の拡充に関する要望書」を市長、教育委員長に提出。
10・14	「第24回定例会」活動のまとめ。
10・16	第55回関東甲信越静公民館研究大会 委員3名参加。

〈環境講座〉

リニア新幹線のジレンマ

講師 懸樋 哲夫 (ガウスネット代表)

夢の乗り物「リニア新幹線」が現実的なものになり、移動の利便性や経済効果の向上が考えられています。一方、環境や電力消費などの問題が浮上してきています。加えて住宅地を通るリニア新幹線の安全性は……？ 今回は、リニア新幹線の事故のリスクと、それを防ぐために必要な電力量の関係、さらに電磁波の人体への影響にも焦点を当て、リニア新幹線の裏側について考えます。

〈懸樋さんの著書〉

『高圧線と電磁波公害』(緑風出版)、『危ないリニア新幹線』(緑風出版) ほか多数。

と き 12月20日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 3階集会室

定 員 30名(先着順)

申込先 12月9日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

冬休み！ 男性の料理入門・親子版 子どもと一緒に ホームパーティー料理に挑戦！

作るのが面倒だけど、みんなで食べてみたいキッシュ。一度作ってみませんか。グループに分かれて協力して作ります。

ほかにピラフやスープ、デザートを作る予定です。ぜひご参加ください。

講師 北川 みどり (管理栄養士)

と き 12月21日(日)

朝10時～昼1時半くらいまで

ところ 福祉会館 3階料理講習室

定 員 父と子8組(祖父でも可)

(先着順)

費用 一組(子ども1人まで) 1,500円

(子ども2人まで) 1,600円

(子ども3人まで) 1,700円

12月14日(日)までに公民館へお支払いください(受付時間：月曜日以外の朝9時～夕5時)。当日払いはできません。食材購入後のキャンセルは実費をご負担していただきます。

持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん(台ふき用、皿ふき用)

申込先 12月9日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

〈図書室のつどい〉



弱者の戦略

～生物界のおきてに学べ～



講師 稲垣 栄洋 (静岡大学)

「自然界では強い者だけが生き残るはずなのに、どうしてたくさんの弱い生き物たちが、自然を謳歌しているのだろうか。これが本書の重要なテーマである」と稲垣さんは著書の冒頭で述べています。何気なく生きている動植物が厳しい自然界を生き抜くためには、群れる、メスを装う、他者に化ける、時間をずらすなどの弱者ならではの驚くべき生存戦略を発達させています。

私たちの暮らす世の中にも厳しい競争社会があって、勝者を除いた多くの人間や会社にとっては生きづらい状況にあります。そこで、自然界をたくましくしたたかに生き抜く「弱者の戦略」から、生きるためのいくつかのヒントを得てみたいと思います。

〈稲垣さんの本〉『弱者の戦略』(新潮選書)、『雑草は踏まれても諦めない』(中公新書ラクレ) ほか多数。

と き 12月14日(日) 昼1時～4時

ところ 公民館 3階集会室 定 員 30名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈くにたちブッククラブ 時空をこえる言葉2〉

泉鏡花『草迷宮』(岩波文庫)

講師 東郷 克美 (日本近代文学)

と き 12月11日(木) 夜7時～9時

(通常より30分早く開始します)

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

*今回は1月8日(木) 田中慎弥『共喰い』(集英社文庫)です。

しょうがいしゃ青年教室

陶芸講座作品展



昨年の作品



技の伝授

陶芸講座の参加者が作った、コーヒーカップやトースト皿などを展示します。作品展終了後は公民館の喫茶「わいがや」で使われます。おいでください。

と き 12月13日(土) 昼2時～21日(日) 昼2時

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

*陶芸講座(講師 木村富美枝・大野博美)は、滝乃川学園の協力を得て5月から11月まで行いました。

〈哲学講座〉

長谷川宏さんと読む本

宮本 常一『忘れられた日本人』 (岩波文庫)

講 師 長谷川 宏 (哲学者)

ヘーゲルの翻訳や哲学研究で多くの著作を出している長谷川宏さんを講師に、今年度は戦後の民俗学者である宮本常一の『忘れられた日本人』を取り上げます。宮本は1930年代から生涯、全国を歩き地元民から聞き取りを続け、柳田民俗学から出発しつつも独自の民俗学を構築しました。

宮本が追求したかったことは何だったのか、講読を通じ哲学の観点から考えてみたいと思います。

読書会の形式です。初めての方のご参加を歓迎します。

〈長谷川さんの著訳書〉

ヘーゲル『精神現象学』の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞受賞。『高校生のための哲学入門』(ちくま新書)、『ことをめぐる哲学の冒険』(毎日新聞社)、『双書哲学塾 生活を哲学する』(岩波書店)ほか多数。

と き 1月10日、17日、24日、31日、2月7日

全5回、いずれも土曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 3階集会室

定 員 30名(応募者多数の場合は抽選。原則全回出席できる方)

申込方法 往復はがきの往信用裏に、氏名(フリガナ)・住所・電話番号を明記のうえ、下記までお申込みください。(はがき1枚につき1人まで。記載漏れは無効とします。)

※返信用表にも住所・氏名を明記してください。

申込締切 12月19日(金) 必着

申込先 国立市公民館 哲学講座担当

〒186-0004 国立市中1-15-1

問合せ 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

地域で日本語支援をしたい人のための

日本語教育入門

地域で日本語を教えてみたいと考えている方のための講座です。日本語を教える際に必要なことを、理論・実践の両方から学んでいきます。(全8回)

※講座終了後に、日本語サポートボランティアに参加することもできます。

◆総論篇：1月7日(水)

～地域の日本語ボランティアの役割とは～

講 師 林川 玲子

(東京日本語ボランティア・ネットワーク)

◆理論篇：1月14日、21日、28日(水)

～日本語教育のための文法事項や文型について～

講 師 庵 功雄 (一橋大学・日本語教育)

◆実践篇：2月4日、18日、25日、3月4日(水)

～地域日本語教室の現状理解と実践演習～

講 師 志村 ゆかり (東京経済大学・日本語教育)

時 間 いずれも水曜日、夜7時～9時

定 員 25名(先着順)

*全回参加できる方を優先します。

ところ 公民館 3階講座室

費 用 テキスト代実費 ※2,000円程度

(『にほんごこれだけ! 1・2』ココ出版)

申込先 12月10日(水) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



昨年度の様子

〈地方自治講座①〉

市民のためのまちづくり講座

地方自治とは、地域のことは、地域に暮らす私たちが自らの手で決めていくということ。

2000年以降の地方分権改革によって国と地方自治体の関係が大きく見直されましたが、私たち市民の想いは、まちづくりや施策に反映されているでしょうか。

この講座では、市民のための自治体のあり方を学び、本来私たちができること、今取り組まなければならない課題について考えたいと思います。

と き 全3回、いずれも日曜日、
昼1時半～3時半

*1回のみの参加も可能です。

ところ 公民館 3階講座室

定 員 30名(先着順)

申込先 12月9日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

回	月 日	内 容	講 師
1	12月21日	憲法と地方自治 ～日本国憲法に規定される地方自治～	杉原泰雄 (一橋大学名誉教授)
2	1月11日	市民による自治のしくみ ～市民と首長と議会はどんな関係か～	福嶋浩彦 (中央学院大学、 元我孫子市長)
3	1月25日	人口減少の中で自治体をどう経営するか ～問われる創意工夫と自立～	

青年講座 【シリーズ 現代社会を、私はこう生きる】

「ありのままの自分」を生きられる 社会をめざして

講師 薬師 実芳 (NPO法人 ReBit 代表理事)

現代社会を若い私たちはどう生きるのか。シリーズ第2回は、LGBTをめぐる問題にNPOを立ち上げて取り組んでいる薬師実芳さんを招いてお話をうかがいます(LGBTとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとった、セクシュアルマイノリティの総称)。

幼少期に米国に住んでいた薬師さん。心は男性、身体は女性として生を受けましたが、「日本に帰ってくるまで性別について意識することはなかった」と言います。

近年はメディアから注目されていますが、日本社会はLGBTにとって「生きづらい」国と言わざるをえません。一人ひとりが、互いの違いを受け止めて、その人らしく生きられる社会。そうした社会の実現に向けて、教育現場での講演活動やLGBT成人式などを手掛ける薬師さんのお話と、事前学習会を通して考えます。

と き 12月27日(土) 昼2時～5時

ところ 公民館 1階青年室

対 象 10代後半～30代の方 定員 25名

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

メール a20@whi.m-net.ne.jp (メール申込み可)

事前学習会 「映画に学ぶLGBT」

講師 橋本 恭子 (一橋大学特別研究員)

と き 12月21日(日) 昼2時～4時半

ところ 公民館 1階青年室 定員 25名

*上記と同様に申込みください。

(教育講座)

「寛容」について学び、伝え、考える

「寛容」について考えさせられる話題やニュースが近年増えてきているのではないのでしょうか。「許さない」「許せない!」そんな言葉があふれる一方、「不寛容」を批判する言葉もよく目にします。現代社会で求められている「寛容」とはどのようなものなのでしょう。

一昨年の「地域活動入門」講座からできたグループでは、市民と一橋大学大学院のメンバーが道徳教育について考える時間を約1年間重ねてきました。2018年度から小中学校で「道徳の時間」が教科化される見通しであることなども背景に、この講座では、皆さんと一緒に現代の「寛容」について考えたいと思います。

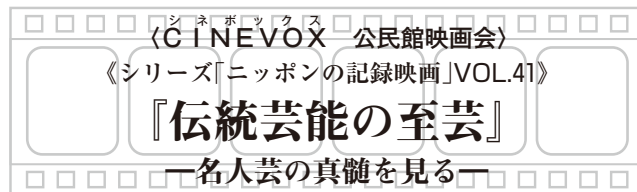
と き 全5回いずれも土曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定 員 30名(全回参加できる方優先)

申込先 12月9日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141



《上映作品》

『吉田玉男・文楽に生きる』

1981年 カラー 34分 監督 木村正美

『狂言師・三宅藤九郎』

1984年 カラー 32分 監督 吉田喜重

『歌舞伎の魅力・菅承相』

片岡仁左衛門一義太夫狂言の演技

1982年 カラー 35分 監督 羽田澄子

記録映画の重要な役割として、優れた伝統文化を記録して、その素晴らしさを一般の人たちに伝えていくということがあります。

今回は、日本の伝統芸能の成り立ちやその芸を今に伝えるべく精進を続ける名人たちの至芸を記録し、高い評価を受けた名作ドキュメンタリー3篇、『吉田玉男・文楽に生きる』『狂言師・三宅藤九郎』『歌舞伎の魅力・菅承相 片岡仁左衛門』をお楽しみいただきます。

と き 12月21日(日) 昼2時～4時頃

ところ 公民館 地下ホール

定 員 85人(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

回	月日	テーマ	講師(所属)
1	1月10日	これまでの活動紹介／ 道徳教育の変遷	武村知子 (一橋大学)／ 浦野歩 (一橋大学大学院生)
2	1月24日	「寛容」について	藤野寛 (一橋大学)
3	2月7日	〈ワークショップ〉 子ども達に「寛容」 を伝えるとしたら?	片岡佑介 (一橋大学大学院生)
4	2月14日	前回のふり返り	武村知子
5	3月7日	〈対談〉(予定)	



かるがもの大家族—矢川緑地—
撮影 末永皓さん(富士見台)

ひろば

(8ページにもあります)



水泳会員募集 かもめクラブ

健康な身体づくり、生活習慣に水泳を取り入れてみませんか。泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問わず、体験可。
日時 毎週金曜日 朝10時〜12時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 田淵(510) 1107

グレッグ太極・ヨガサークル

当サークルの体操は病後のリハビリ免疫の活性化やマッサージュ効果等健康のために古い時代に考案されたもの。講師グレッグは長年身体トレーニングの指導に携わる日時 毎週火曜日 夜7時半〜
場所 公民館
連絡先 ソウ(9136) 1557

テニスの仲間若干名募集

ダイヤモンド硬式テニスクラブです。主に週末午前ゲームを楽しんでいます。国立市民、50歳代歓迎、お試参加も歓迎します。コートでお待ちしています。
日時 土日祝 原則午前
場所 谷保、矢川、広場コート他
連絡先 佐藤(574) 9559

ターゲットバードゴルフご紹介

あなたもシャトルボールを打ってみませんか！一本のゴルフクラブで打ち進み網ホールに入れてコースを廻るユニースポーツです。体験会開催中
日時 毎週木曜日 昼12時〜3時
場所 谷保第三公園 野球場
連絡先 岡田(575) 1358

「和みくらぶ」会員募集

太極拳のゆったりとした動きは体力や運動神経に係わらず、どんな年代の人でもできるのが魅力です。心も体も芯から強く美しく。まずは体験してみませんか。
日時 毎週金曜日 昼3時〜5時半
場所 総合体育館 第3体育室
連絡先 山田(9136) 0339

公民館の在り方を考える学習会

「公民館の在り方」について第29期公民館運営審議会答申が出ました。前公運審委員長を招いて答申書を読み、今後の公民館について考えます。主催公民館を守る会
日時 12月14日(日)朝10時〜12時
場所 公民館 3階集会室
連絡先 杉原(577) 0124

第19回くいしんぼクラブ プティさんのインド料理

チキンカレーとデザートを作りましょう。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。
日時 12月14日(日)昼1時〜
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

公民館がキレイになりました

館内掲示等で呼び掛けた「公民館を自分たちでキレイにしよう! 第3弾」。
10月20日(月)午後、16人の市民と職員で、実習室の壁とロビーの柱の塗装、地下ホールの壁の修復、実習室のキッチンと公民館入口の清掃を行いました。



壁のへこみを修復



キッチンもピカピカ

呼び掛け

- ・第59回くにたち市民文化祭実行委員会
- ・公民館利用者連絡会
- ・くにたち地域外国人のための防災連絡会



正面入口の文字が見やすくなりました

公民館運営審議会報告

11月11日(火)第30期第1回定例会を開催。委員14名、教育長、館長、職員2名が出席。傍聴2名。はじめに教育長から各委員に委嘱状を伝達(任期は平成28年10月31日までの2年間)。教育長のあいさつ、各委員の自己紹介の後、委員長、副委員長等を選出。

委員長には佐藤節子氏、副委員長に山田哲也氏、公民館だより編集研究委員に長田利信氏、龍野瑤子氏、三好紀子氏、社会教育学習会委員に今村和義氏、田中一嘉氏、富田和枝氏、東京都公民館連絡協議会委員に大井利雄氏が選出された。その後、今後のスケジュールについて話し合った。

報告事項

- 公民館だより編集研究委員会 10月号の反響並びに11月号の内容について報告あり。第14期編集研究委員会は11月末日をもって任期満了。
- 社会教育委員の会 答申の作成に向け議論。委員が分担して執筆中。
- 東京都公民館連絡協議会 委員会第2回研修会「公民館の活性化の方法」が11月22日(土)に開催される。

次回は、12月9日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(公民館)

今月の公民館 (12月、1月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

11日(木) 夜 くにたちブッククラブ

14日(日) 昼* 図書室のつどい

「弱者の戦略～生物界のおきてに学べ～」

20日(土) 昼 「リニア新幹線のジレンマ」

21日(日) 朝 男性の料理入門・親子版

21日(日) 昼～地方自治講座①

21日(日) 昼～青年講座 シリーズ

現代社会を、私はこう生きる

21日(日) 昼* CINEVOX 公民館映画会

「伝統芸能の至芸—名人芸の真髄を見る—」

1月7日(水) 夜～日本語教育入門

10日(土) 昼～長谷川宏さんと読む本

10日(土) 昼～「寛容」について学び、伝え、考える



みのわ通り(2009年)
撮影 末永皓さん(富士見台)

ひろば
(7ページにもあります)

サンメイト ダンスパーティー

フリーダンス、ミキシング、デモあり、抽選会等クリスマス音楽で、楽しく踊りましょう。リボン待機。女性控室有。会費500円 飲物茶菓子付。

日時 12月22日(月) 昼2時～4時半
場所 福祉会館 4階大ホール
連絡先 寺島(575) 7046

第42回元旦マラソンおしらせ

10km 一般男女・高校男子、5km 中学男子、3km 40歳以上男子・一般女子・中学女子・小学生(親同伴)。参加費は当日徴収。スタートは、朝10時。

日時 1月1日(木) 朝9時集合
場所 多摩川河川敷グランド
連絡先 北島(572) 8311

「ひろば」掲載写真
募集中

「ひろば」に掲載する、国立のまちの風景や行事、自然などの写真を募集しています。毎月1、2枚掲載予定です。恐縮ですがおれはお出しできません。ご協力いただける方は、公民館までご連絡ください。

今号まで使用していたタイトルデザインは、2003年1月号から「くにたち公民館だより」の顔として親しまれてきました。

「くにたち公民館だより」のタイトルデザインは来月から新しくなります!!

公民館 年末年始のお知らせ

12月29日(月)～1月3日(土)

この期間は、公民館全体がお休みになります。

2月分の会場調整会は、12月27日(土) 朝10時から行います。

参加申込書投入期限は12月25日(木) 午後10時です。

「言の葉」会

「言の葉会」ということばの響きの優しさに惹かれて、公民館に古典・近代文学を読むサークルを訪れました。

その日は『俳文に表われた芭蕉の俳諧精神』幻住庵記を中心として『の題で、手元に芭蕉の生涯について調べた膨大な手書きの資料と「幻住庵記」の抜粋コピーが十枚。事務局の作家・詩人の八覚(はつかく)正大さんの司会で始まり、代表の元国立高校教師で講師の榎本修さんが話をしました。

芭蕉のその時々俳句を挙げ、その時の状況、交わった人々、流行した俳諧などから作風がどのように変化していったか。またそれは芭蕉の何が変わったのかなどを軽妙に、詳しく語られていきます。秋深き隣は何をする人ぞ

これは芭蕉が病んで亡くなる二週間前の作品だということを知りながら芭蕉の気持ちが少し分かったような……。

「言の葉会」は表現としての言葉と芭蕉の言葉とを八覚さんが二人で始められ、回を重ねて19回目になりました。

今まで鵜外・漱石・チェーホフ



旅に病で夢は枯野を……

・新古今和歌集(定家・西行)など、いろいろ取り上げました。

進め方は作品の一節に目を通し、それから榎本講師が、内容、時代背景を語ります。その後で参加者でなんら拘束されず、要求もされないフリーな歓談の場になればとのことでした。

参加者は初めての人、顔なじみの人、榎本さんの解説ぶりに惹かれる人などいろいろです。

文学に興味のある方なら誰でも参加できます。

月一回、午後 国立市公民館
費用は資料代300円

連絡先 八覚(080) 4539
〈文・写真 長田利信〉